

令和5年度 第3回
徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会

会 議 次 第

日 時：令和6年3月19日（金）午前10時から
場 所：徳島県立農林水産総合技術支援センター 大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

- （1）令和5年度外部評価委員会の活動経過
- （2）令和5年度外部評価の反映状況
- （3）外部評価報告書の協議について
- （4）令和6年度外部評価実施計画（案）について

4 閉 会

配付資料一覧

- ・ 会議次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 会場配席図

資料 1 外部評価委員会の活動経過

資料 2 外部評価結果の反映状況

資料 3 令和 6 年度 外部評価実施計画（案）

I 外部評価委員会の活動経過

徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価実施要領及び令和5年度外部評価実施計画に基づき以下の活動を実施した。

1 評価内容

(1) 課題別評価

1) 試験研究業務

研究課題の設定等について

2) 普及指導業務

普及活動の計画及び手法等について

3) 教育研修業務

教育研修の内容について

(2) 特定課題評価

「食料安全保障の強化」に対応した普及・教育・研究の取組み

2 評価活動

時 期	実 施 事 項	場 所
令和5年 8月28日 (月)	<第1回外部評価委員会> (1) 令和5年度 外部評価の実施について (2) 普及指導業務の評価 ・徳島農業支援センター ・鳴門藍住農業支援センター (3) 教育研修業務の評価 ・農業大学校の現状と今後の方向性	農林水産総合 技術支援センター (大会議室)
令和5年 12月26日 (金)	<第2回外部評価委員会> (1) 試験研究業務の評価 ・農業分野の取組み - スマート農業の推進 - みどり戦略・気候変動対策 - 新たな価値の創出・生産力強化 ・畜産分野の取組み ・林業分野の取組み ・水産分野の取組み	農林水産総合 技術支援センター (大会議室)
令和6年 3月19日 (火)	<第3回外部評価委員会> (1) 令和5年度外部評価委員会の活動経過 (2) 令和5年度外部評価の反映状況 (3) 外部評価報告書の協議について (4) 令和6年度外部評価実施計画(案) について	農林水産総合 技術支援センター (大会議室)

令和5年度 普及指導業務に係る外部評価結果の反映状況について

【徳島農業支援センター】

評 価	評価結果の反映状況
重点課題の取組み 【未来を担う魅力ある農業者の育成確保】 女性農業者の経営目標達成者が少ないため、改善が望まれる。 また、参加人数が大きくなると団体組織として、中心的な代表者も必要になってくると思う。	阿波アグリガールズラボのメンバーの多くは、経営方針の決定に参画しておらず、経営目標を定めていないのが実情となっています。また、経営目標には、所得や商品開発数等を設定していたものの、生産資材の高騰の影響もあり、目標達成数が目標を下回る結果となっています。 今後は、改善計画や工程表の作成を支援し、進捗状況を確認することで、経営目標の達成に繋げて参ります。 また、阿波アグリガールズラボは、気軽に集まり、学ぶことのできる仲間づくりを目的としており、活動はそれぞれの取組に手挙げ方式で参加する形をとっていることから、取組ごと主体的に参加する女性農業者をリーダーに位置づけ、活動を強化して参ります。
県内には、各地域で同様の活動をしている女性農業グループもあると思うので、他のグループとの交流をした方がよい。マスコミ等を利用して広報し、活動に参加する農業女子を募ってはどうか。	阿波アグリガールズラボには、異業種との交流を促すため製造業や仲卸業など女性事業者が参画しています。また、県内の女性農業者や香川県、兵庫県の女性農業者グループとの交流も行っています。 しかし、活動に参加できないメンバーも多くいることから、プロジェクト活動に重点を置いた取組へと充実させることで、活動に参加するメンバーを増やして参ります。

評 価	評価結果の反映状況
【地域間連携による園芸産地振興】 ほうれんそうの分業化システム構築については、目標値以上の成果が上がっており、今後さらに、農福連携を強化し、さらなる普及を進めていただきたい。	農福連携による分業化システムについては、取組を農業法人へと広げ普及させるとともに、新たにすだちの収穫作業の補完などへと展開して参ります。
【中山間地域の持続可能な産地振興】 すだちの点滴かん水技術については、降雨状況なども考慮し、適切な条件下のもとで、モデル園における評価をお願いする。	点滴かん水技術により、かん水時間の短縮や負担軽減が図られたものの、果実肥大への効果については判然としなかったことから、引き続きモデル園において検証して参ります。なお、かん水に加えて同時施肥を行う展示ほを設置し、一層の省力化と施肥量の削減に取り組んで参ります。

評 価	評価結果の反映状況
特定課題 【「食料安全保障の強化」に対応した普及の取組について】 「れんこんの持続的農業の推進」について、関係機関と連携し、精力的に活動されており、大きな成果が得られている。 過去の対策を踏まえて、土壌改善を行うこととなった流れを明示しておくのがよい。	れんこんの腐敗症対策は、冬期の湛水、石灰窒素による殺菌、ビニル被覆の太陽熱処理、土壌還元消毒と対策が取られてきました。 今までの対策では、土作りの概念が少なかったため、令和5年作成の「れんこんの持続的農業マニュアル」により土壌改善の重要性や過去の対策との違いについて解説し、農家や関係者への周知に取り組んでいます。
腐敗症対策について、原因の究明から対策まで、生産者のニーズを的確に把握している。 日本有機農業普及協会等県内外の専門家との連携を他の分野でも進めたらよいと思う。	「みどりの食料システム戦略」の公表以降、農業支援センターは持続的農業や有機農業の農家・関係者と積極的に連携しています。 れんこん以外では、かんしょ、カリフラワー、いちご、コマツナ、スダチ等で県内外の専門家との連携に取り組んでおり、今後も対象品目を増やしていく予定です。
れんこんの腐敗症率は、半減以下となり、生産者からの評価も高い。 引き続き、れんこん栽培に適した土づくりや有機質肥料の利用方法、生産性向上への取り組み等持続的農業への推進を図ってもらいたい。	れんこん栽培に適した土づくりについては、長年にわたり試行錯誤の状態でしたが、れんこんの持続的農業の取組により明らかになったことが多く、新たに「れんこんの持続的農業マニュアル」としてとりまとめました。 今後は、このマニュアルを活用して農家の生産性の向上に取り組んで参ります。

令和5年度 普及指導業務に係る外部評価結果の反映状況について

【鳴門藍住農業支援センター】

評 価	評価結果の反映状況
重点課題 【ブランド産地の生産力強化】 「かんしょ」と「れんこん」の品質及び生産性向上に向けた取組については、具体的な数値データや役割分担を示すとともに、問題点の要因について、もう少し説明してほしい。	「かんしょ」については、JA里浦管内で行った実態調査の結果、約3割の生産者が貯蔵障害に困っていることが判明し、その内、33%が「鼻腐（ハナグサレ：つる側から腐る）」、28%が「尻腐（しりぐされ：先端側から腐る）」であることが明らかになりました。さらに「鼻腐」「尻腐」から乾腐病・つる割病の菌を確認し、発生要因の一つと考えられました。その結果に基づいた対策を研究機関の協力により検討し、定植時の苗消毒や本圃の排水改良対策などについて推進しています。 「れんこん」については、腐敗病により低下していた収量（約0.5t/10a）が太陽熱土壌消毒処理により回復（約2.0t/10a）したデータを示し、適正な処理方法の普及に努めています。現在は病原菌による「腐敗病」とは別の原因による「腐敗症」対策を、高度技術支援課および研究機関と連携して検討しています。 「かんしょ」「れんこん」ともに本県の主要な品目であることから、JA・研究機関・普及が連携し、情報共有や意思統一を図りながら課題解決に向けて取組を進めて参ります。
「かんしょ」と「れんこん」の技術マニュアルの作成が目標値となっているが、どこまでできたら完成といえるのかわかりづらい	両品目ともにマニュアルの作成が完成形ではなく、これを生産者が活用し生産性の向上に繋がることを最終的な目標と考えています。 「かんしょ」については、発生の多かった障害の対策について、JAの勉強会（7月）にて周知してきたところです。 「れんこん」については、腐敗病に効果の高い太陽熱土壌消毒の処理マニュアルを動画で公開（https://www.facebook.com/share/v/C4KZvZmKSjitXT74/）するとともに、栽培研修会（7月）でも紹介し、普及に努めているところです。

評 価	評価結果の反映状況
【次代を担う人材の育成】 地域農業の担い手となる人材の育成については、目標の達成率を数値として明記してほしい。	当管内では、令和元年から4度までに22人の新規就農者があり、毎年5人程度がコンスタントに新規就農しています。 現在、各市町村において、地域での話合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画が策定中であり、農地の受け手となる担い手を確保できるよう、新規就農者の経営確立を支援する資金の交付事業や担い手への規模拡大等に必要な機械・施設の導入を支援する補助事業などを活用して参ります。
就農希望者の確保に向けては情報発信が重要であるため、今後の取組でもあったように、SNSやケーブルテレビ等あらゆる媒体を活用して活動してほしい。 就農希望者の確保に向けて、新規就農者を密着取材し、紹介する番組を制作するなど、ケーブルテレビを活用してほしい。	引き続き地元ケーブルテレビ等を活用し、産地の先輩農業者や新規就農者の活躍を紹介するPR動画等で解りやすい情報を発信するとともに、県の農業者応援サイト「農の宝島!! とくしま」のSNSを入り口に県内外の就農希望者に向け広く更なる周知に努めて参ります。

評 価	評価結果の反映状況
特定課題 【「食料安全保障の強化」に対応した普及の取組について】 多様な就農形態や労働力確保についての課題設定はよいが、具体的な目標が定められておらず、何を目指しているか不明であるため、記載いただきたい。 また、取り組んだ内容や支援体制、役割分担が不明瞭であるため、記載いただきたい。	これまでは、生産者自ら知人・ハローワーク等を活用し労働者の確保を行ってきたが、必要人員が確保できなかったり、重労働のため長続きしないなど、労働力の確保が課題となっています。 現在、管内の全ての農協で無料職業紹介所が開設され、援農者への農作業の指導や品目別のマニュアル化についても支援しているところです。 また、市町村とＪＡ、県で組織する農業振興協議会において、無料職業紹介所や障害者雇用の活動に係る情報の共有に努めております。 今後は、マッチングアプリを活用した労働力確保にも取り組むとともに、管内の繁忙期の異なる産地・品目をつなげ労働力をリレーする広域連携の実現を目指して参ります。
若い人には、マッチングアプリ等は抵抗ないと思うが、上の世代の人にも普及しているのか。 使いこなせる人を増やしていくことが課題であるため、今後さらなる活用に向けて、PRをしっかりと行ってもらいたい。	世代に関係なくスマートフォンを扱える方なら取り組むことは可能と考えており、高齢者をはじめ、生産者向けにマッチングアプリ活用講習会を開催し、先進的な取組状況について研修するとともに、スマートフォンへのアプリ登録から利用までを実技指導することで幅広い世代に向け推進しているところです。 今後は、生産者に広く周知するため、SNSやケーブルテレビの活用、管内農協の生産部会別に利用講習会を開催し普及を図って参ります。
外国人労働力に依存している状況があることから、県だけでなく、市町村や農業団体と一体となった労働力確保のための機関・体制づくりが必要でないか。	当管内は、人参、レンコンやカンショなど大規模経営体が多く労働力確保は重要課題となっており、ＪＡの無料職業紹介所から農福連携まで幅広く推進しているところです。 市町村とＪＡ、県で組織する農業振興協議会において、外国人材の活用をはじめ、情報共有を図り労働力確保に向け一丸となって取り組んで参ります。

令和5年度 試験研究業務に係る外部評価結果の反映状況について

【農業分野の取組】 <スマート農業の推進>

評 価	評価結果の反映状況
ドローンや画像解析による取り組みは、みどり戦略の推進にも寄与できるため、診断範囲の拡大や解析精度の向上を進めていただきたい。 イチゴ受粉安定化のポリネーター投入も効果的である。 これら新規技術の普及には、技術啓蒙や支援活動も必須である。	ドローンや画像解析は今後更に応用範囲が広がると考えます。本県の主要品目で適用の可能性を探りながら、診断項目の増加や実用性の検証に努めて参ります。 イチゴのポリネータ監視は今までに無いシステムであり、有効な技術となるよう開発を進めて参ります。 また、これらの技術を生産現場へ普及する場合は、普及組織や生産者団体等と連携し、実演会や講習会の開催などにより多くの生産者に情報が伝わるよう努めます。
スマート農業技術は、時代に合った技術開発ではあるが、技術を使用する側が高齢化しており、より簡単・便利に使いこなせる体制が必要と考える。	技術の実用化に当たっては、試用の機会を設けるなどにより幅広い年代の方からご意見を伺い、高齢者にも使っていただける技術となるよう努めます。
AIやIoTを用いた果実生育予測システム等は、契約栽培農家にとって良いシステムである。利用者を増やすために、スマート技術導入コストを下げる必要がある。	スマート農業技術において、導入コストの抑制は大変重要と考えています。システム開発に当たっては、安価な部品を用いるなどにより低コスト化に留意して参ります。
ブロッコリーの機械収穫は、労働力の削減につながり良い。ニンジン機械収穫の知見を参考にしたい。	ニンジンでは機械収穫が一般的になっており、農機メーカーも多くの知見を有していると考えられます。ブロッコリーの機械収穫技術についても、農機メーカーとの連携を密にして開発を進めたいと考えています。
作業時間の短縮だけでなく、作業負荷軽減についての指標があればよい。	機械化や軽労化技術において、作業負荷軽減程度を数値化することは大変重要であると考えています。サツマイモの高設育苗システムでは作業姿勢の改善データも取得しており、こうしたデータも活用しながら技術の普及推進を図って参ります。

<みどり戦略・気候変動対策>

評 価	評価結果の反映状況
みどり戦略に有効な新技術の開発が予定されており良い。 有機農業や有機質資材利用の拡大については、新技術マニュアルをしっかりと作成し、普及に努めてほしい。	これまで開発した技術をさらに発展させ、J A S 有機に適合する技術の開発に取り組み、最終年には普及に向けてマニュアルを作成いたします。
これまでの技術マニュアルは、どこで公開されているのか。	当センター資源環境研究課のWebサイトで公開しておりますので、ご覧下さい。ヤフー、またはGoogleの検索サイトでは「資源環境研究課」「資料」「研究成果」をご入力して頂ければトップにヒットします。右のQRコードもご利用いただけます。 
気候変動は今後も続くため、現在の高温耐性品種等の品種開発に加え、先々を見据えた、品種改良や栽培方法を研究開発してほしい。	気候変動対策については、温暖化の影響や国や周辺他県における対策技術の開発状況を随時情報収集し、品種や技術の開発に遅れが生じないように取り組んで参ります。
気候変動に対応した研究は、継続して行い、早期の技術確立を期待する。	今後も継続して気候変動に対応した品種育成や技術開発に取り組み、早期の技術開発を目指して参ります。
熱帯果樹栽培技術は、生産コストが課題となるため、本県に適合する品目の継続調査や栽培技術の開発が必要と考える。	施設栽培では暖房コスト低減のため最低温度を下げる試験を行うとともに、アボカドでは露地栽培技術の確立に取り組んでいます。また、現在取り組み中の品目にとどまらず、新たに有望な品目があれば、積極的に研究を行いたいと考えています。
みどり戦略の策定意義は理解できるが、その数値目標達成は困難と感じる。 センターの取組みが、戦略のどの部分に対応しているか、また、取組みの進捗程度について、把握と整理が必要と考える。	みどり戦略の本県基本計画において、2030年目標として、化学農薬使用量（リスク換算値）10%削減、化学肥料使用量20%削減などを掲げております。このうち、化学農薬につきましては、新規課題で取り組む「ガスバリアー性フィルム」を利用したクロルピクリン剤の削減技術が確立し、広く生産現場に普及すれば、達成は可能と考えております。化学肥料につきましては、主要作物において緑肥を活用した技術を確立することで、目標値に近づけるよう努力して参ります。

＜新たな価値の創出・生産力強化＞

評 価	評価結果の反映状況
スタチ、サツマイモ等の特産品の生産強化施策は、県の農業活性化に直結することから積極的な推進を希望する。	今後も本県の特産品に関する生産上の課題などを、普及組織や生産者団体と連携して迅速・広範に情報収集し、研究に取り組んで参ります。
スタチ新品種は期待している。安定した周年供給により、年間通じてスタチが手に入るとありがたい。	勝浦1号は令和6年春から苗の供給が開始され、農家での栽培が始まります。今後は、普及組織や生産者団体と連携し、栽培が順調にスタートできるよう、生産者の指導を行って参ります。
品種開発中のものが新たな「徳島ブランド」になるよう期待する。その中で、ナシの新品種開発は、本県の栽培に最適化できるのか。	ナシの新品種は現在、産地において現地試験を行っており、その栽培結果を元に、生産者や生産者団体にもご意見を伺いながら品種登録の可否を判断して参ります。このため、新品種は、本県ナシ産地での栽培に十分適合したものになると考えています。
新たな取組みに期待する一方、どの項目も計画が「3年間」かかることから、技術の早期確立と、普及のための周知方法もしっかりと考えてほしい。	研究を進めるに当たっては、毎年度中間評価を実施し進捗管理するとともに、研究成績を水稻・野菜など品目毎の担当者会等で普及組織や関係団体へ周知しており、早期に技術普及される仕組みを構築しています。
病害の原因解明と対策は生産強化の上で早急に取り組むべき。	近年、温暖化等による気候変動や人やモノの国境を越えた移動の増加等に伴い、有害動植物の侵入・まん延リスクが高まっております。このような状況下で生産現場で問題となる病虫害の発生実態をいち早く把握し、その解決・対策に向け、引き続き取り組んで参ります。
技術導入による高い生産性を目指して、効率化・合理化を図った経営モデルを作成してほしい。	技術導入による作業効率化や生産性向上の効果について、可能な限り数値化した上で、新たな経営改善モデルを作成してまいりたいと考えております。

【畜産分野の取組】

評 価	評価結果の反映状況
ニンジンの飼料利用や飼料用米栽培技術は畜産農家にとって良い技術であるのため、早期の確立と周知を期待する。	世界情勢の変化により輸入飼料価格が高騰し、その安定的な確保も課題になる中、国産飼料資源の活用は、畜産経営の安定のためには、必要不可欠となっています。 国産飼料資源の活用により、生産性の向上や生産コストの削減が図れるよう、技術の開発・実証を行うとともに、得られた成果の速やかな情報提供を進めて参ります。
「阿波とん豚」や「阿波尾鶏」は、店頭でも見かけたため、ブランド化が進んでいると感じる。 更なる販路開拓と安定供給に資する研究を期待する。	産地間競争が激化している中、有利販売につなげるためには、県産畜産ブランドの安定供給はもとより、品質向上などによる差別化など、ブランド力を高めることが必要であります。 今後とも、種畜・種卵の安定供給及び販路開拓、消費拡大につながる研究に取り組んで参ります。
持続的生産については、画像診断や遺伝子解析などの科学的解析による正確な評価結果が大いに期待できる。 アニマルウェルフェアについての記載はないが、取組みを進めてほしい。	画像診断では、乳牛の体表面の毛なみや毛つやから、現場で簡単に健康度を把握するシステムの開発を目指しています。また、遺伝子解析では、阿波とん豚において、病気に強い遺伝を持つ個体を選抜していくことで、生産性の高い系統へと改良を進めて参ります。 上述の取組みは、苦痛の早期除去あるいは病気にかかりにくいといったアニマルウェルフェアに配慮した技術ととらえております。また、同時にストレスの軽減に関する研究も進めております。引き続き、アニマルウェルフェアに配慮した様々な研究を進めて参ります。

【林業分野の取組】

評 価	評価結果の反映状況
国の政策で植えた杉が切り頃になっているが、切った後の植林が進まず「順番待ち」の状態だと聞いた。山の環境を健全に保てる施策が必要である。	研究としては、森林の更新を円滑に進めるため、初期成長の早い「エリートツリー」の効果的な活用や植栽後の課題である「シカ被害」対策に関する取り組みを進めて参ります。
「エリートツリー」という言葉を初めて知った。この技術の活用方法について、例えば小学校での栽培体験等を通じて、知る・学ぶ機会があれば良いと感じる。	「エリートツリー」の定量的な評価を進め、まずは林業普及指導員（県職員）へ最新の情報を提供するとともに、関係機関との連携により、周知に努めて参ります。
航空レーザー技術は、樹木の生育を見るだけではなく、品質などが確認できれば、伐採前に価値が判断でき、販売に役立つと感じる。	現在、計画しております研究において、どこでどのような品質の木材が伐採されたかといった情報を収集し、立地条件との関係を解析することを予定しております。
廃菌床の再利用技術は、低コスト化に有効であり、データをしっかりと取って欲しい。 また、廃菌床はどのくらい再利用されているのか？	廃菌床の再利用に向け、培地基材として利用するために必要なデータ等の取得に努め、最終的にはマニュアルとしてとりまとめて参ります。 廃菌床の菌床への再利用は、県内において現時点では1者が試験的に行っております。

【水産業分野の取組】

評 価	評価結果の反映状況
スマート技術による海況予測システムは、作業の効率化など色々な場面で利用できる有用な技術であり、しっかりとデータ蓄積してほしい。 (松木委員長・板東委員)	より正確な海況予測システムを構築するため、これまでのデータに加え、IOT技術等を利用してより詳細なデータを蓄積して参ります。また、来年度は沿岸部の海況をAIを用いて予測する技術の開発に取り組み、将来的には本県海域の予測も可能となるよう取り組んで参ります。
漁業関係者も高齢化しているので、使いやすい・分かりやすいシステムで技術開発を進める必要がある。 (佐藤委員)	水産研究課から情報提供を行うにあたり、より多くの漁業者に利用していただけるよう簡易な操作で利用できるシステムを構築するよう努めて参ります。
海水温暖化や栄養塩不足等の気候変動への対策は喫緊の課題だが、即時解決は困難と思える。地道な研究の継続による課題解決を期待する。 (大城委員)	これまでも、漁業調査船「とくしま」による海洋観測や、沿岸部の水温情報、栄養塩等の情報を蓄積してきたところでありますが、継続して情報収集すると共に、観測地点を増やす等、より詳細な情報の収集にも力を入れて参ります。
テングサ減少のニュースを見たが、原因は何なのか？ 藻場の減少は水産資源の減少に直結するため、関係各所と連携し、藻場の早期造成技術の確立が必要と考える。 (松木委員長・片岡委員・佐藤委員)	テングサの減少の原因は解明されていませんが、水温上昇、栄養塩の低下等が考えられています。テングサ藻場の衰退について、まずは基礎的な情報を収集いたします。また、藻場の早期回復に向けて、他県と情報交換を行いながら、本県の海域に適した増殖方法を検討して参ります。

令和5年度 教育研修業務に係る外部評価結果の反映状況について

評 価	評価結果の反映状況
農業大学校の現状と今後の方向性について 農業者（農業法人含む）と農大との連携や情報交換などの交流を、さらに進めてほしい。	引き続き、「青年農業者クラブ」や「農業法人協会」等との交流機会を持つことにより、学生の就農に対する、更なる醸成を図って参ります。
アグリビジネスアカデミーにおいて、受講者が少ないなどのニーズが薄い講座については再編してはどうか。	受講者の少ない講座については、講座内容の統廃合などについて検討を進めています。
農業大学校の卒業生が農業関係の職種に就く割合は9割と非常に高いが、定着率は把握していないようなので、調査を行うなど把握に努めてほしい。	関係者の理解と協力を求める等により、定着状況の把握について検討を進めたいと思います。
温暖化により地球の環境の変化が著しいことから、「気象」に関連したコースや学びがあればよいのでは。	「農業気象学」の講義において、地球温暖化の学習を進めているところです。 今後とも徳島地方気象台からの支援により最新の知見を得ることで、内容の充実を図って参ります。
「みどりの食料システム戦略」に沿った、有機農業に関するコースの開設を検討してほしい。	環境負荷低減技術について学ぶことができる講座の新設について検討を進めています。
コース選択について、1年生の早い時期に決めてしまい、後悔する学生はいないか。また、コース変更は可能か。	コース選択については、受験時に希望を把握するとともに、入学後、両コースの実習を経た後、具体的な進路に対する希望について、学生の家族も交えた面談を実施するなど、慎重に決定を行っています。 なお、コースの変更については、履修科目が異なることから不可としており、また、変更を希望する学生はない状況です。

評 価	評価結果の反映状況
特定課題 【「食料安全保障の強化」に対応した教育の取組について】 輸入に頼ることなく、国内の農業生産で食料をまかなえるよう、知識や技術を学んでほしい。	座学や実習、プロジェクト活動を通じて「食料安全保障の強化」を意識づけし、さらなる学習を進めて参ります。
講義や実習のほか、個々のプロジェクト研究において、「食料安全保障の強化」に係る取組がなされている。 今後は、座学において、意識付けや取組の重要性についてしっかり教授してほしい。	今年度は、中国四国農政局県拠点の担当者を招き、「食料・農業・農村基本法」の見直しに係る検討状況と併せて、「食料安全保障」における農業の重要性について理解を深める講義を実施しました。 引き続き、関連する授業等を通じて重要性の認識を深めて参ります。
今までの慣行農業について、稲わらや堆肥などの国産の有機物に置き換えることで、コスト面や環境面における比較をしてはどうか。	農林水産総合技術支援センター各課における試験研究の現状・成果を学ぶ「高度技術演習」講義等において、学習を進めて参ります。
【その他】 卒業生のフォローアップについて、年数回の面接を行うなど、就業状況を把握することで、農業従事者等に結びついているか検証してほしい。	農業大学校を研修機関として就農準備資金を受給している学生については、卒業後、年2回の就農状況報告により、状況を把握するとともに、必要に応じて面接を実施しております。 受給をしていない卒業生については、関係者の理解と協力を求める等により、就業状況の把握について検討を進めたいと思います。

令和6年度 外部評価実施計画（案）

1 課題別評価

- 1) 試験研究業務
研究課題の設定等について
- 2) 普及指導業務
普及活動の計画及び手法等について

令和6年	美馬	三好
令和5年	徳島	鳴門藍住
令和4年	高度	吉野川
令和3年	阿南	美波
令和2年	美馬	三好

- 3) 教育研修業務
教育研修の内容について

2 特定課題評価（案）

「生産力強化」に向けた普及・教育・研究の取組み

（参考）

- R5 「食料安全保障の強化」に対応した普及・教育・研究の取組み
- R4 「環境負荷軽減」に対応した普及・教育・研究の取組み
- R3 「技術の伝承」に対応した普及・教育・研究の取組み
- R2 労働力不足に対応した普及・教育・研究の取組み
- R1 気候変動に対応した普及、教育、研究の取組み
- H30 6次産業化人材を含む担い手育成
- H29 農林水産3分野の各サイエンスゾーンの取組
- H28 農林水産総合技術支援センターにおける新技術・品種開発
- H27 農林水産総合技術支援センターにおける担い手育成

3 外部評価年間スケジュール

- 8月 試験研究業務
- 12月 普及指導業務、教育研究業務
- 3月 外部評価報告書の取りまとめ